

# 応用撮影モードを 知ろう

KEYWORD プログラム撮影/絞り優先撮影/シャッター優先撮影/マニュアル撮影

E-PL6の撮影モードは、iAUTOモードやSCNモードなどのかんたん撮影モードと、一歩進んだ写真表現が楽しめる応用撮影モードに分類される。ここでは、より積極的にカメラを操作して撮影することができる応用撮影モードについて解説する。カメラに慣れてきたらぜひ使いこなしたい。

## 1 応用撮影モードとは？

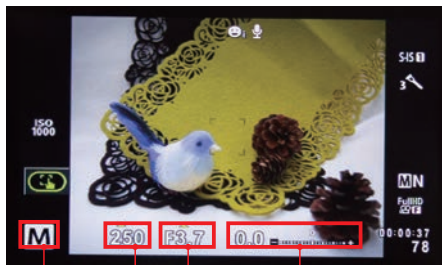


応用撮影モード

モードダイヤルに**P(プログラム撮影)**、**A(絞り優先撮影)**、**S(シャッター優先撮影)**、**M(マニュアル撮影)**と表示されているものが、応用撮影モードだ。被写体の状況や、どんな表現をするかによってモードを選ぼう。絞りやシャッター速度によって変わる写真表現の仕組みを知れば、撮影のおもしろさが増すだろう。

## 2 応用撮影モードのモニター表示

応用撮影モードは、iAUTOモードやSCNモードではカメラが自動で設定してくれる露出補正值や**シャッター速度**、**絞り値**などを、**撮影意図に合わせて自在に設定できる**。



撮影モード シャッター速度 絞り値 露出補正值

## ■各撮影モードの特徴

撮影モード	設定内容
<b>P</b> プログラム 撮影モード	シャッター速度と絞り値をカメラが自動設定し、適正露出を得られる。シャッターチャンスに集中したい場合などに向いている。かんたん撮影モードとの違いは、露出補正值、ホワイトバランス、ISO感度を変更できること。さらに、プログラムシフトで、シャッター速度と絞り値の組み合わせを撮影者が選択して変更することもできる。
<b>A</b> 絞り優先 撮影モード	撮影者が絞り値を決定し、カメラがシャッター速度を自動設定する。絞り値を変えて、ぼけを使った表現や、画面全体にピン트가合ったような表現ができる。奥行きを視覚的に表現する撮影などに向いている。
<b>S</b> シャッター優先 撮影モード	撮影者がシャッター速度を決定し、カメラが絞り値を自動設定する。低速シャッターで被写体の動きをぶらして表現したり、高速シャッターで被写体の動きを写し止めたりすることができる。躍動感や動きを出す撮影に向いている。
<b>M</b> マニュアル 撮影モード	シャッター速度と絞り値の両方を撮影者が決定する。露出を固定して撮影したい場合や、BULB撮影などの長時間露光で写真を撮るにはこのモードを使う。花火や夜景の撮影に便利だ。

Pモードの詳細→P44



Sモードの詳細→P48



Aモードの詳細→P46



Mモードの詳細→P50



まとめ

- ★応用撮影モードは、P、A、S、Mの4種類。状況に応じて使いわける。
- ★シャッター速度や絞り値を自在に設定することで、iAUTOモードやSCNモードとは一味違う、写真表現ができる。

# アートフィルターの 特徴と使い方

KEYWORD アートフィルター/詳細設定

芸術的な写真表現がかんたんに楽しめるアートフィルター。E-PL6では、全12種類のアートフィルター、さらに、タイプ、効果の追加、モノトーンのフィルター効果、調色などが適用できる。

## 1 アートフィルターとは？

シャッターを押すとカメラ内蔵の画像処理技術で、アーティストックな作品に加工してくれる機能のアートフィルター。イラストのような仕上がりや、パソコンの画像処理ソフトで加工したような仕上がりなど、12種類のフィルターから選んで撮影できる。また、**詳細で仕上がりに変化をつけたり、効果の追加や調色などエフェクトを加えることもできる。**

### クロスプロセスI



フィルターを変えて撮影した浜辺は、全く違う印象の仕上がり。どちらも非現実的な画になるが、クロスプロセスIでは、緑系が強調され、コントラストが高まる。一方、トイフォトIIIは周りが暗くなり全体は赤味をおびた色合いになる。

### トイフォトIII



## 2 アートフィルターを設定する



モードダイヤルをARTに合わせてOKボタンを押すと、アートフィルターの選択画面が表示される。△▽でフィルターを選びOKボタンを押す。

## 3 詳細設定で仕上がりに変化を加える

モードダイヤルのARTでアートフィルターを選択すると、詳細が設定できる。フィルターによっては、標準の仕上がりをタイプIとして、変化をつけたタイプII、IIIが選べ、5種類ある効果の追加は選択した1つを設定できる。詳しくは次ページからの各フィルターのページで紹介する。



アートフィルターの選択時に画面下部に【詳細】と表示されたら△を押す。

### タイプ

詳細画面で【タイプ】のアイコンを選択。△を押して【I】【II】【III】の適用したいタイプを△▽で選びOKボタンを押す。



### 効果の追加

詳細画面で▽を押して【効果の追加】アイコンを選択。△を押して適用したい効果を△▽で選びOKボタンを押す。



アートフィルターの選択画面に、設定した【タイプ】と【効果の追加】のアイコンが表示される。

## ■モノクロエフェクトの設定方法

モノクロの仕上がりになるラフモノクロームとドラマチックトーンのタイプIIではピクチャーモードのモノトーン（→P86）と同様に、調色、フィルター効果を選択できる。

### フィルター効果



詳細画面で▽を押して【フィルター効果】アイコンを選択。△を押して適用したいフィルター色を△▽で選ぶ。選んだ色が選択画面の画像の色になる。OKボタンを押す。

### 調色



詳細画面で▽を押して【調色】アイコンを選択。△を押して適用したい色を△▽で選ぶ。選んだ色が選択画面の画像の色になる。OKボタンを押す。



アートフィルターの選択画面に、【タイプ】【効果の追加】のアイコンと同様、設定した【フィルター効果】【調色】のアイコンが表示される。

まとめ

- ★12種類の芸術的な仕上がりの写真が撮れる。
- ★仕上がりに変化をつけるタイプとエフェクトを加える効果の追加ができる。
- ★ラフモノクロームとドラマチックトーンのタイプIIでは、調色とフィルター効果が選択できる。

# 雑貨をイメージに合わせて撮る

KEYWORD アスペクト比/露出補正

雑貨や小物をイメージ通り撮るには**被写体の形や配置に合わせて、アスペクト比を選ぶ**。構図で工夫するだけでなく**縦横比を変えると、写真の印象が変わる**。また、さわやかな印象にしたいなら露出を明るめに、落ち着いた印象にしたいなら露出を暗めにする。イメージを膨らませて、アスペクト比と露出補正で写真の雰囲気をつくらう。



### 透明感は逆光で

液体の入ったボトルやグラスなどを透明感があるように撮るには光の位置と背景がポイント。逆光で透過光になる所にボトルを置き、写真全体をシックにしたいときは背景が暗めの所を選ぶ。

カメラ設定	撮影モード	A (絞り優先)	絞り	F5.6
	シャッター速度	1/30 秒	露出補正	+1.0
	使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL 14-42mm F3.5-5.6 II R		
	焦点距離	42mm	ホワイトバランス	晴天

## 1 被写体のイメージに合うアスペクト比を選ぶ

雑貨を1:1のスクエアでまとめ、露出補正をプラスにして、かわいらしい雰囲気にした。被写体そのものに目が向くアスペクト比なので、間延びがなくコンパクトに見える。



カメラ設定  
撮影モード: A (絞り優先) 絞り: F5.6  
シャッター速度: 1/20秒 露出補正: +0.3  
ISO感度: 800 使用レンズ: M.ZUIKO DIGI  
TAL 14-42mm F3.5-5.6 II R 焦点距離:  
40mm ホワイトバランス: 晴天

## 2 露出補正をマイナスにして落ち着いた雰囲気に

ジャムの瓶とティーカップを1:1で撮影した。この被写体の場合は、露出補正をプラスにすると素材感や立体感が失われてしまう。マイナスにして陰影を出して、素材感を活かし、落ち着いた雰囲気を狙った。露出補正で明るさを変えると雰囲気も変わるので、さまざまなアレンジをしてみよう。



カメラ設定  
撮影モード: A (絞り優先) 絞り: F5.6  
シャッター速度: 1/250秒 露出補正: -1.0  
ISO感度: 800 使用レンズ: M.ZUIKO DIGI  
TAL 14-42mm F3.5-5.6 II R 焦点距離:  
31mm ホワイトバランス: 晴天

まとめ

- ★被写体の配置に合わせたアスペクト比を選ぶ。
- ★構図とアスペクト比の組み合わせで印象が変わる。
- ★露出補正で写真をイメージ通りに仕上げる。